

令和2年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和2年7月14日（火）午後2時00分～午後3時30分

場 所：豊田中央図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 10名

事務局 6名（教育部、図書館管理課）

指定管理者 3名（TRC・ホームックス共同企業体）

関係課 5名（学校教育課、保育課、子ども家庭課、
次世代育成課、市民活躍支援課）

（1）図書館運営について

事 務 局：令和元年度取組実績及び令和2年度取組状況について説明

指定管理者：令和2年度重点取組項目について説明

委 員：今までは来館者数増加を目標にしてきたが、今後は図書館が地域に対して貢献できたかなど、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）を踏まえて目標を変更しても良いと思う。事務局の考えをお聞きしたい。

事 務 局：アフターコロナの目標は現在検討中。コロナ第2波到来時の対応を最優先で考える必要がある。

委 員：児童コーナーでのみ入館者把握を行っているという説明があったが、限定的なのはなぜか。

事 務 局：図書館では、誰が来館したか、どんな本を読んだかは把握すべきではないという考え方が一般的である。コロナ感染者発生時にせめて児童だけでも追跡できるよう対象を限定して実施した。

委 員：指定管理者の司書率が65%以上と説明があったが、指定管理者を管理する図書館管理課にも司書資格を保有している職員はいるか。

事 務 局：図書館管理課には司書資格保有者が2名在籍。

委 員：図書館の休館が突然で休館前に本を借りることができなかった。他市では事前に休館をアナウンスしたところもあり、豊田市でも同様の対応は難しかったのか。

事 務 局：事前のアナウンスがない中での休館は本当に申し訳なく思うが、市内公共施設統一の対応であり、我々にも選択肢がなかった。事前のアナウンスについては、駆け込みで本を借りたい人が押し寄せ、密になる可能性もあった。休館初日・2日目は、休館を知らずに来館された方にお詫びするとともに返却のみ対応させていただいた。

委員：コロナの第2波、第3波に備え、来館予約システムの導入など突然休館としなくても感染対策の取れる方法もあるので検討してほしい。

事務局：指定管理者とともに検討したい。

委員：他市町村の対応事例を図書館同士で共有・検討する場はあるか。また、指定管理者は他市町村でも受託しているが情報共有する仕組みはあるか。

指定管理者：社内の情報共有ツールがあり、WEB上で各館の対応状況を共有できる。また、ソーシャルディスタンス確保のための足跡マーク設置など他館で先行し作成されたものは流用することができ、業務の効率化も可能。今後も他館と積極的に情報共有していく。

事務局：三河地区の館長会でも情報共有が可能。

委員：年間を通じて開館日数をどれだけ確保できるかが課題。コロナによる臨時休館中に前倒しで蔵書点検を実施し、蔵書点検に伴う休館をなくすことは可能か。

指定管理者：実際に蔵書点検実施を検討したが、休館期間が未確定であり断念した。今後は、システムベンダーに相談しながらフロア毎での実施など、方法を検討したい。

委員：GIGAスクール構想の前倒しにより小中学生一人につき1台タブレットパソコンが配布されると報道されており、今後、調べる学習についても紙書籍を使う必要がなくなるかもしれない。教育委員会としてICTの推進や紙書籍の必要性についてどう考えているか意見を聞きたい。

事務局：今回のように急に学校が休校になった時には各自で学習ができるなどタブレット導入には利点があるためICTの推進は必要と思うが、同時に、紙書籍も引き続き必要と考えているので、今後も拡充に努める。電子書籍については、既に導入している他市町村では休館中の利用が増加したと聞いているが、話題作が少ない、または、閲覧回数に制限があるなど課題もあり、導入は慎重に検討したい。

委員：本がデジタル化した時に紙の本が衰退するとは思わない。紙の本が並んでいる独特の空間が、図書館の存在意義でもある。

委員：新聞を開けば自分が知りたい情報以外も目に飛び込んでくるように図書館でも紙の書籍を並べ、一目で色々な本が見られる空間を提供することが大切だと思う。

委員：本は市の財産だが、未返却本は年間どの程度あるか。またどう対処しているか。

指定管理者：未返却者への対応については、メール・電話・文書にて督促を行こ

なっている。また、予約が入っている本については、早期返却を依頼する紙を挟んで貸出し、ご協力いただいている。蔵書点検結果では昨年度の無くなった本は約290冊。

委員：未返却本の存在は市民に周知し注意喚起したいが模倣される恐れもあり、情報発信の仕方には注意した方がよい。

指定管理者：利用者とコミュニケーションをとり、図書館に親しみを感じてもらうことにより未返却が減少すると考えている。今後も市民に親しまれる図書館を目指す。

(2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

事務局：令和元年度事業実績及び令和2年度取組計画について説明

関係課：令和元年度事業実績及び令和2年度取組計画について説明

委員：学校と図書館が一緒になって読書活動を推進することが重要だと考えているので、今後もタイアップして取り組んでいく必要がある。

委員：高校生等のティーンズ世代は部活や勉強で読書する時間を確保するのが難しい。

委員：幼稚園や小学生の間は読書する機会が多く、中学・高校・大学と進学するにつれて読書から離れてしまう。人の一生など長いスパンで考えれば勉強等で忙しい時期と余裕がある時期があり、忙しい時期の読書量の減少はあまり問題視しなくても良いのではないかと。大人になった時に再び読書しようと思う人が少しでも増えればいい。余裕ができた時期に本が手に取れるよう読書できる環境を提供し続けることが大切だと思う。

委員：シールラリーの昨年度実績と課題や改善点をお聞きしたい。

指定管理者：昨年度の参加者数は約1800人、3つの館をまわりゴールできた方は約300人。今年度は単にそこへ行くだけでなく、各館で地域に関するクイズを出題し楽しみながら他の館へも足を運んでもらうことを考えている。

委員：児童にタブレットパソコンが配布されるが、フリーWi-Fi環境もあわせて用意する必要があるのではないかと。

事務局：原則は学校での使用、緊急時にのみ自宅に持ち帰ることを想定しており、タブレットを貸与し常時児童が持ち歩けるわけではない。緊急時の対応としてタブレットと、Wi-Fi環境がない家庭には合わせてルーターの貸出も検討している。Wi-Fi環境はWi-Fi機能付き自動販売機の設置など民間も一体となり現在整備を進めている。

以上